

各県の麦の生産状況について（小麦）

資料 3 - 1

	1 生産拡大にあたっての課題	(参考：これまでの技術指導等)	2 今後の課題クリアに向けた推進方針	新たに生産者と実需者が連携して取組んだ事例
新潟県	・収量・品質の高位安定による所得確保 令和3年産1等級比率 小麦：18.3%（73.1%） 令和3年産10a当たり収量 小麦：230kg ※（ ）内は北陸 ・米麦穀粒の相互混入防止対策 ・麦の前後作における最適な品目・品種の選定	・品種選定：早生品種の導入（小麦：ゆきちから、夏黄金） ・施肥管理：生育状況に応じた追肥施用 ・排水対策：団地化推進による地域排水の徹底、暗渠未施工等排水不良圃場への作付け回避、ほ場内排水の徹底 ・越冬前生育量確保：圃場内排水の早期実施、適期播種、畦立てドリル播種の実施、播種後土壌処理除草剤による雑草防除 ・硝子質粒の発生：過度な越冬後追肥の抑制 ・赤かび病の発生：適期防除、ほ場巡回調査の実施 ・異種穀粒の混入防止：機械・施設を兼用する場合の使用前後の清掃徹底（小麦）	・基本技術の徹底（湿害対策、赤かび病防除、適期収穫など） ・団地化推進による地域排水の徹底、ほ場内排水の徹底 ・稲の機械・施設を兼用する場合の使用前後の清掃徹底喚起 ・麦の前後作における最適な品目・品種の検討	別紙のとおり ・新潟小麦の会 ・新潟あんぱんの会
富山県	・登熟期間が梅雨時期（梅雨入り平年：6/11頃～）と重なるため、子実の登熟不良、刈り遅れ、赤かび病の発生などによる収量や品質の低下が懸念される。 ・このため、収穫期が早い、収量性が高い、耐病性があるなどの特性を持つ品種の選定が必要 ・パン用小麦では、タンパク含有率を高めるために穂肥・実肥が必要となるなど、生産コスト増が懸念 ・小麦はアレルギーを含むため、大麦の産地である本県では小麦専用の機械・施設の整備、生産エリアの区分けなど、大麦とのコンタミ防止対策が必要 ・実需者ニーズ（品質・加工適性など）を把握したうえでの計画的な生産が必要	・生産者がごく少数のため、限定的な指導にとどまっている。 ※生産者から相談があった場合に普及指導員が適宜対応している。	・現時点では、適地適作の観点から、実需者から高い評価を得ている大麦や、小麦粉の代替として米粉用米の生産拡大・需要拡大を進めたいと考えている。 ・現在栽培している地域におけるJA等と連携した栽培指導の実施 ・本県での栽培に適した品種を選定するための情報収集、適性確認の実施 ・ニーズの把握による需要に応じた生産を推進 ・大麦とのコンタミ防止のための生産エリアの区分けの検討	・砺波の大門地区の営農組織が作った小麦「さとのそら」を使い、地域の特産品である「大門素麺」を製造・販売している。
石川県	・排水対策の徹底等の基本技術の実施による収量、品質の向上 ・能登地域では、湿田が多いことから、作付が進んでいない。 ・中長期的な需要の掘り起こし（近年のミスマッチ状況により、生産者・関係機関の間に大麦の増産（需要の確保）について不安がある） ・面積拡大に当たり、拡大規模によっては、新規生産者の掘り起こしや共同乾燥施設の運用改善が必要	-	・令和3年度から、地区毎に関係機関で課題等を検討する体制を整備 ・栽培講習会、現地講習会等を通じ、排水対策の徹底等の基本技術を指導 ・能登地域では、圃場整備実施地区に対して、麦の導入を推進 ・麦流通会議の開催を前倒しし、需要の早期把握に努める ・必要に応じ、新規生産者の掘り起こし、共同乾燥施設の運用をJA等と検討 ・一部の地区でのみ生産しているため、他地区との課題の共有	-
福井県	・品種の選定（実需が求める品質・特性と、生産者の作りやすさ（収穫時期、収量）の両立） ・販路の確保 ・荷受施設が不足（大麦と小麦の両方を受けられない）	品種：福井県大3号 ・品種選定：農業試験場での奨励品種決定調査試験 ・技術指導等：福井県水田農業レベルアップ委員会 で振興方針を決定	・生産者が作りやすく、実需者の求める品種の選定 ・実需者との意見交換の実施 【参考】令和4年産麦振興方針の重点推進事項 ・早生品種跡地等の播種条件の良い圃場での作付け ・水稻収穫後、直ちに排水対策を実施 ・土壌改良資材の適正な施用 ・播種適期の厳守 ・過剰分けつによる細麦防止 ・赤かび病防除の徹底 ・生産工程管理記帳、GAPの確実な取組み	-

(別紙) 小麦、大麦について新たに生産者と実需者が連携して取組んだ事例(新潟県)

【新潟小麦の会】

- 平成 25 年に結成。生産者や実需者（パン屋、製麺業者、製粉会社、醸造会社など）、JA、行政機関等により構成。
- パン屋や醤油メーカー等による県産小麦を使用した商品化及び販売等の取組が拡大。
- 品質・収量の向上を目指した勉強会・情報交換会、販売イベントによる生産者・実需者・消費者の交流活動を実施。

【新潟あんぱん小麦の会】

- 令和 3 年に結成。新潟市西蒲区の生産者と、新潟市内でパン屋等を展開する民間企業等により構成。
- 県産小麦 100%使用のパンの商品化及び販売等を実施。



〈現地研修会の様子〉
(新潟小麦の会)



〈県産小麦（ゆきちから）100%のパン〉
(新潟あんぱん小麦の会)

各県の麦の生産状況について（大麦）

資料 3 - 2

	1 生産拡大にあたっての課題	(参考：これまでの技術指導等)	2 今後の課題クリアに向けた推進方針						
新潟県	・収量・品質の高位安定による所得確保 令和3年産1等級比率 大麦：1.7% (78.9%) 令和3年産10a当たり収量 大麦：252kg ※ () 内は北陸 ・麦の前後作における最適な品目・品種の選定	・施肥管理：生育状況に応じた追肥施用 ・排水対策：団地化推進による地域排水の徹底、暗渠未施工等排水不良圃場への作付け回避、ほ場内排水の徹底 ・越冬前生育量確保：圃場内排水の早期実施、適期播種、畦立てドリル播種の実施播種後土壌処理除草剤による雑草防除 ・硝子質粒の発生：過度な越冬後追肥の抑制 ・赤かび病の発生：適期防除、ほ場巡回調査の実施	・基本技術の徹底（湿害対策、赤かび病防除、適期収穫など） ・団地化推進による地域排水の徹底、ほ場内排水の徹底 ・稲の機械・施設を兼用する場合の使用前後の清掃徹底喚起 ・麦の前後作における最適な品目・品種の検討						
富山県	・収量・品質の高位安定化継続のため、排水対策など基本技術の徹底及び硝子率の低減や赤かび病発生・異物混入の防止に向けた対策が必要 ・生産拡大のため、更なる需要の拡大が必要	・収量・品質の安定化に向けた排水対策などの基本技術の徹底 ・硝子率の低減のため、適切な播種量や肥培管理（施肥量など）の徹底 ・赤かび病発生防止対策における適期防除指導や刈取前の発生状況調査の実施 ・雑草種子混入防止のため、ほ場内での雑草除去指導など実施	・現時点では、適地適作の観点から、実需者から高い評価を得ている大麦や、小麦粉の代替として米粉用米の生産拡大・需要拡大を進めたいと考えている。 ・収量・品質の安定化に向けた排水対策などの基本技術の徹底 ・硝子率低減対策（播種量・施肥量の適正化）の徹底 ・赤かび病発生防止に向けた適期防除の徹底と、被害が認められた場合の収穫・乾燥の仕分けなどの徹底 ・雑草種子混入防止のため、ほ場内の雑草の除去などの徹底 ・県民間流通麦地方連絡協議会等を通じた実需者ニーズの把握、生産サイドと実需サイドとの情報交換の促進などを積極的に展開し需要拡大を図る。						
石川県	・排水対策の徹底等の基本技術の実施による収量、品質の向上 ・能登地域では、湿田が多いことから、作付が進んでいない。 ・中長期的な需要の掘り起こし（近年のミスマッチ状況により、生産者・関係機関の間に大麦の増産（需要の確保）について不安がある） ・面積拡大に当たり、拡大規模によっては、新規生産者の掘り起こしや共同乾燥施設の運用改善が必要	・排水対策の徹底 ・土壌分析に基づく酸度矯正 ・生育に応じた施肥管理 ・計画的な防除	・推進目標 <table><tr><td>品質目標</td><td>単収目標</td><td>作付面積目標</td></tr><tr><td>1等麦比率 90%以上 Aランク比率100%</td><td>400kg/10a</td><td>1,600ha</td></tr></table> ・令和3年度から、地区毎に関係機関で課題等を検討する体制を整備 ・栽培講習会、現地講習会等を通じ、排水対策の徹底等の基本技術を指導 ・能登地域では、圃場整備実施地区に対して、麦の導入を推進 ・麦流通会議の開催を前倒しし、需要の早期把握に努める ・必要に応じ、新規生産者の掘り起こし、共同乾燥施設の運用をＪＡ等と検討	品質目標	単収目標	作付面積目標	1等麦比率 90%以上 Aランク比率100%	400kg/10a	1,600ha
品質目標	単収目標	作付面積目標							
1等麦比率 90%以上 Aランク比率100%	400kg/10a	1,600ha							
福井県	・需要の拡大 ・産地の保管倉庫不足	品種：ファイバースノウ、はねうまもち ・品種選定：農業試験場での奨励品種決定調査試験 ・技術指導等：福井県水田農業レベルアップ委員会で振興方針を決定	・実需者との意見交換の実施 【参考】令和4年産麦振興方針の重点推進事項 ・早生品種跡地等の播種条件の良い圃場での作付け ・水稻収穫後、直ちに排水対策を実施 ・土壌改良資材の適正な施用 ・播種適期の厳守 ・過剰分けつによる細麦防止 ・赤かび病防除の徹底 ・生産工程管理記帳、ＧＡＰの確実な取組み						